



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

一茶と子規

待乳山を詠む

住職 平田真純

九月二十日は当山の開山記念日であり、本年も記念法要が執り行われます。

推古帝時代の開山以来、待乳山は聖天様が降臨された霊山として、また季節ごとそれぞれに風情のある名所としてつとに有名であり、特に江戸時代から明治にかけて、多くの浮世絵や詩歌にその様子が記されています。その中から、俳人小林一茶、正岡子規が待乳山を詠んだ句を記載いたします。当時の情景を思い浮かべていただき、参拝に加味していただければと思います。

小林一茶（一七六三―一八二八）

藪入やぶいりや うらからおが拝む 亦打山
大風おおだこや 上げ捨あすててある 亦打山
長閑のどしや 酒打うちかける 亦打山
春雨あめや はや灯あかりのとぼる 亦打山

春雨あめや 夜よさりも参る 亦打山

春雨あめや 夜よさりも上る 亦打山

春風はるかぜや 袂たもとにすれる 亦打山

けふもけふも 一つ雲雀ひばりや 亦打山

夏の夜よや うらから見ても 亦打山

帷かたびらに 摺すりやへらさん 亦打山

帷かたびらに 摺すりやへらすらん 亦打山

心太こころてん 盛りならべたり 亦打山

人過すぎて 夜よは明かねて 亦打山

煤すすとりて 寝て見たりけり 亦打山

亦打山 夕越ゆうこえくれば ずきんかな哉

月さすや 年としの市日いちびの 待乳山

正岡子規（一八六七―一九〇二）

待乳山 ひらりと見えぬ 青簾

簾捲く 指図の下けり 待乳山

捲き上る 簾の下や 待乳山

涼しさや 川を隔つる 灯は待乳

聖天の うしろは淋し 菊の花

町中に 聖天高し 冬木立

待乳山便り

震災供養碑の慰霊法要

防災の日である九月一日、住職導師、当山僧侶出仕の下、震災供養碑の慰霊法要が行われました。



当山の隣の聖天公園にある震災供養碑は、戦前当山の敷地内にあった碑を公園内に移したもとなっており、発起人として当時の本龍院住職と信徒総代の名前が彫られています。

御奉納

高岡京子様より本堂で使用する扇風機を二台ご奉納いただきました。ありがたく使わせていただきます。



信徒旅行のご案内

十月二十八日(日)〜二十九日(月)、生駒聖天、石切神社、四天王寺を巡る参拝旅行を企画しております。

参加希望の方はお早めにお申し込みください。

応募締切 九月二十七日 参加費 五万八千円
定員四十名

訃報

当山の世話人であった綱島きく枝様が八月十九日、享年九十六才にて永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

七五三参りの案内

当山では十月から十一月を中心に七五三参りを承っております。

七五三の始まりについては諸説ありますが、第五代将軍徳川綱吉の長男・徳川徳松の健康を祈って旧暦の十一月十五日に行われたのが起源だとされています。旧



暦の十五日は二十八宿の鬼宿日(鬼が出歩かない日)に当たり、結婚式以外の何事をするにも良い日だと考えられていました。明治に入ると庶民にも広まり、新暦の十一月に行うことが一般的となったようです。

お参りは一 가족ごとに本堂内陣にて行者様から直々にお加持を授けられます。法要が終了した後、お子様のお名前とお年が入りましたお守りとお供物をお授け致します。

法要は予約にて承っております。土曜日曜はご希望の方が多くなりますので、お早めに寺務所までご連絡下さい。御志納金 五、〇〇〇円也

歓喜講特別講演 天根のおはなし

十月二十一日、歓喜講終了後、大広間にて特別講演会を開催いたします。

今回は野菜研究家であるKAORU様をお招きして、当山の名物でもある大根についての講演を行います。

参加は無料となりますので、ぜひご気軽にご参加ください。

十月御縁日大法要 行事紹介

歓喜講祈禱会

十月二十一日(日) 午前十一時

講金 三、〇〇〇円

十月二十一日、歓喜講祈禱会を執行いたします。歓喜講は昭和二十八年の戦災で焼失した本堂の再建促進のため、昭和三十三年に発足した講です。昭和三十六年に現在の本堂の落慶式が行われた後も、聖天様と信者の皆様とのご縁を結ぶ講として存続してきました。

歓喜講の「歓喜」は本尊である大聖歡喜天にちなんで名づけられたものです。歓喜とは一般的には大きな喜びを指しますが、仏教における歓喜とは、佛法を聞き、全身で仏様への感謝の喜びを感じることを指します。当日は般若法要を行い、講に申し込まれた方には名前入りのお札をお渡しします。ぜひ聖天様との縁を結ぶ歓喜を感じてください。

KAORU プロフィール

長野県出身。ラジオの報道キャスターを経て、現在は全国第一号の野菜ソムリエとして活躍。大手企業の商品開発に携わりながら、現在は銀座で六十八年続くフランス料理店「エスコフイエ」の社長も務める。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

信心の「こ」 ② 高松 信次郎

(歡喜二十号 昭和五十年発行より)

他力になるか自力になるか、その人の態度によって決まるように思われます。しかしながら、ご真言をひたすら無心に称えれば「無」です。一方、十一面様がいらっしゃると思つて称えると、仏様に頼ることになるでしょう。つまり自分がお山を頼るのではなくて、お山さまが待つていてくださるのだと思つております。その意味から、悪いことをすればお山さまが罰を与えるのではなくて、呼んで下さらなくなるのだと思います。お山さまは人間を救う為に、わざわざ出て来て下さっているのです。「自力であり他力である。」その結果ご利益がお授けいただいたと自分で解つた時、本当の信仰だと思つたのです。ですから早くお参りを初めた方がいい。早くご縁を得た方は幸福です。

だから私はお山へ参りましたらひたすら感謝して『オンキリギャクウンソワカ』とご真言ばかりを称えております。ご真言を真剣に称えれば自分

の身心が浄化されてきます。例えば、お山さまのご本地仏である、十一面観音の陀羅尼經の中にも、「毎日一百八遍を咒せば一切の悪業が消える。若しそれが出来ない時はこれを一遍でも称えればよい。つまり、『オンマカキャロニキャンソワカ』と称えよ。」とあります。随分有難いお言葉ではありませんか。然し一遍でも良いとはありますが、出来れば毎日百八遍称えてください。

このことはほかの信仰でも同じだと思います。日蓮宗の方は団扇太鼓を叩いて「南無妙法蓮華經」を称えれば、悪因縁を消して日蓮さんに救われる。また禅宗の方が座禅を真剣に行い悟りを開いて救われる。般若心經を一生懸命読むのも同じで、心經の中に十六か所も「無」という字があり、お經を唱えていけばその無を得られます。どんな宗教でも、ひたすらにお縋りすればよいのです。

ですから、お山さまにお縋りしてご利益をいただくことと考えると、「はたしてご利益があるのか、ないのか」などと疑問が出て迷ってしまうもの、不安を伴うご信仰はまだ宙ぶらりんの人だと思えます。その点、お山さまのご縁を得た方は幸せです。「どこで称えても救つてやるぞ」というお言葉が経本にも出ています。そんな心配など無用で、お山さまが『心正しく我を信ずる者は必ず救つてやる』とご誓願されているのですからお参りに心

配しちゃあいかんのです。

私達は一般にご利益を得たくてお参りします。或る本に出ていたことですが、『ご利益とはしゃぼん玉のようなものだ。しゃぼん玉は美しい。然しちよつとさわるとパチンと消えてしまいます。しかしこれをうまく手にのせて止めることも出来ません。この受け止められるかどうかは「因縁」による』とありました。

私はこの「因縁」とは陰だと思つています。つまり物、人、心すべての原因結果を作るのは縁です。私共の行いは必ず因縁が伴っている。そしてそれは表裏、陽陰あり、善悪あり、必ず陰がともなっています。この陰を隠すことは出来ません。

私達のご信心していても必ず因縁がついてまわっています。だから善い行いに努め、悪業を消すように努めなければいけない。この悪い因縁は何んで消すことが出来るかといえば「ご真言」です。ご婚礼の式で神主さんがご幣をもってお祓いして、悪い因縁を払い浄めて下さるように、ご真言を熱心に称えれば称える程、悪因縁が消されてゆくと考えてよいのではないのでしょうか。

(次号に続く)

※当時掲載された文章を再編集しています。(文責 編集部)

十月行事予定

御縁日大法要

歡喜講祈祷会

十月二十一日(日) 午前十一時

講金 三、〇〇〇円也

ご参拝の皆様の開運招福を祈念し、各自のお名前入りのお札を授与いたします。

特別講演 大根のおはなし

十月二十一日(日) 正午 観覧 無料

法要終了後、大広間にて野菜についての講演会を行います。ぜひご観覧ください。

朝まいり会

十月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

十月十四日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽に参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十月十四日(日) 午前十時/午後一時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後の部は人が少ないため、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

十月二十七日(土) 午後五時〜七時

定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

十月二十五日(木) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に仕上げする御礼の法要です。

十一月の行事 御縁日大法要

写経供養会

十一月十一日(日)

午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円也

墨講

十一月二十日(火)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、

私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷

を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壱万円(一週間)
浴油祈祷 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。